

東区に根ざす伝統

丘珠獅子舞

明治から平成にかけて百年以上もの間、親から子へ、子から孫へと代々受け継がれてきた丘珠獅子舞。現在も当時の姿をそのまま伝承している全国的にも貴重な伝統芸能。歴史的意義が非常に高いことから、一九七四（昭和四十九）年十月、札幌市無形文化財の第一号に指定された。



丘珠獅子舞とは

一八九二（明治二十五）年、山本宗吉らが、現在の富山県南砺市安居から丘珠に入植する際、故郷の獅子舞の道具を持ち込んだ。同年十月、丘珠神社創建の折、富山県出身者たちの総意により五穀豊穰などを祈願し、初めて獅子舞を奉納したのが始まりである。

この獅子舞は、越中系の百足獅子舞である。獅子頭振り一人、カヤ（胴）七人で全長八メートルの獅子を操り、縦笛、横笛、太鼓の「お囃子」に合わせ、剣や扇、唐傘などを巧みに用いて獅子と戦う「獅子取り」との激しい舞が特徴。頭振りやカヤの中は激しい動作のため、代替員を必要とする。

丘珠獅子舞の構成

- ◆獅子本体
- ◆頭振り一人、カヤ（胴）七人
- ◆獅子取り
- ◆小学生五人
- ◆高校生一人、大学生二人
- ◆囃子
- ◆笛（横笛、縦笛）六人
- ◆太鼓二人
- ◆露払い
- ◆天狗、般若 各一人



神社までの「道中」、神社鳥居から拜殿近くまでの「行列」、拜殿前の「睨み」の所作があり、拜殿から降りて用具別に十二種の演目がある。

丘珠獅子舞保存会の皆さん（昨年9月）。保存会発足前、獅子舞に携わる人は「獅子連中」と呼ばれた。



丘珠獅子舞年表

- 1892（明治25）年
丘珠に獅子舞の諸道具が持ち込まれる
丘珠神社創建に合わせ丘珠獅子舞奉納
- 1905（明治38）年
札幌神社（現北海道神宮）に獅子舞奉納
- 1965（昭和40）年
「丘珠獅子舞保存会」発足
- 1971（昭和46）年
第11回冬季オリンピック札幌大会開催の100日前行事に出演
- 1974（昭和49）年
札幌市無形文化財第1号に指定
- 1984（昭和59）年
北海道文化財保護協会保護功労者賞受賞
- 1985（昭和60）年
財団法人 沖永文化振興財団
地域文化活動事業奨励賞受賞
- 1986（昭和61）年
第1回アジア冬季競技大会閉会式に出演
- 2007（平成19）年
FISノルディックスキー世界選手権
札幌大会レセプションに出演
- 2011（平成23）年
丘珠獅子舞伝承120年を迎える

